

日本環境教育学会
2013～2015 年度プロジェクト研究「幼児期における環境教育」
幼児期における環境教育のためのチェックリスト

<2016 年 6 月版>

2013～2015 年度プロジェクト研究「幼児期における環境教育」
世話人：岡島成行（代表）、増田直広（事務局）、井上美智子、神田浩行、白戸溪子、高田研

●はじめに

子どもから大人までを対象にして実践されている環境教育ですが、近年では対象の低年齢化が進んでいます。森のようちえんは全国各地で展開され、実践者の集う同全国フォーラムは大きな集客力を見せています。また、本学会にも幼児における環境教育を研究、あるいは実践している会員も多く、全国大会では保育園や幼稚園での実践報告や小集会も開催されてきました。

上記を背景に、本プロジェクト研究では多様な主体が展開している幼児を対象とした環境教育実践をより高めていくためのツールの1つとして、既に幼児環境教育を実践している人や、これから取り組んでいきたいと考えている人のためのチェックリスト作りを進めてきました。本チェックリストは完成版ではありません。今後、幼児における環境教育に関わる皆さんからのフィードバックを受けて、改良していきたいと考えています。率直なご意見・ご提案をお待ちしています。

●本チェックリストの趣旨

- 幼児環境教育に関わる人が、自身の実践の現状や課題に気づき、より良い環境教育実践にしていくための助けとなること。
- これから幼児環境教育を実践していきたいと思う人の参考となり、自身の環境や活動を見つめ直すための助けとなること。
- チェックリストを活用することを通して、指導者がより良い環境教育実践について話し合うきっかけとなること。
- 環境教育への関わりが少ない人にとってもわかりやすいものとし、指導者自身が環境教育の理解を深めるものとなること。

●本チェックリストを活用する場

- 幼稚園、保育園
- 森のようちえん（日常保育、イベント）
- 家庭や地域
- 環境教育施設、環境教育団体

●連絡先

本チェックリストへのご意見・ご提案は下記事務局までご連絡ください。

2013～2015 年度プロジェクト研究「幼児期における環境教育」事務局
増田直広（公益財団法人キープ協会） n.masuda@keep.or.jp

1. 目的

幼児期における環境教育を通して、学んで欲しいことや身に付けさせたいこと＝ねらいを明確にする。また、設定したねらいを関係者（保育者、保護者、指導者、協力者など）と共有する。

<チェック項目例>

- 自然や生き物の豊かさ（生物多様性）
- 人や文化の豊かさ（人や文化の多様性）
- 自然や生き物が関係し合っていること（生態系）
- 自然界では生産者・消費者・分解者がつながり合っていること（循環）
- 自然と人がつながっていること（自然と人の関係性）
- 自然のおもしろさや不思議さに気づく感性（センス・オブ・ワンダー）
- 自然の大切さ（保護・保全）
- 資源に限りがあること（有限性）
- 生き物には命があること（命）
- 自然や環境に対する価値観（自然観）
- 自分や他者を尊重すること（人間関係）
- 他者と協力することの大切さ（人間関係）
- 自然や生き物への興味関心を持つこと（興味関心）
- 自然や生き物への愛着を持つこと（愛着）
- 自然や他者のために自ら活動すること（行動力）
- 自身で設定したねらい
 - 具体的に記述する＝_____

2. 環境

環境が幼児の成長や行動に影響することを理解した上で、上記目的を達成するために、適切な環境を用意する。

<チェック項目例>

- 自然とふれあえる環境があること（自然環境）
 - 野草や昆虫の生育・成育環境があること
 - 自然とふれあえる園庭があること
 - 植物とふれあえる植栽や畑があること
 - 自然とふれあえる公園や森、水辺、農地などがあること
- 大人との関わりがあること（人的環境）
 - 保育者や指導者だけでなく保護者や外部協力者がいること
 - 人と出会える環境であること
- 食べ物や施設に環境的な配慮があること（物的環境）
 - 食べ物や施設、園庭に環境やエネルギーの配慮があること
 - LCA（ライフ・サイクル・アセスメント＝製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける環境影響の評価）を意識すること
- 安全性が確保されていること（安全）
 - 子ども達の情報（年齢、健康状態、発達状態など）を把握していること
 - 活動場所の危険箇所を把握していること
 - 緊急時に対応できるように準備していること（救急法習得、マニュアル準備など）

- 園や周辺資源を把握すること（保育資源）
 - 園内の資源（自然・文化・人など）を把握すること
 - 園周辺や活動場所にある資源（自然・文化・人など）を把握すること

3. 活動

目的に合わせた体験が必要であることを理解した上で、適切な活動を行う。

<チェック項目例>

- 自然環境を活かした活動となっていること
 - 自然遊びや自然観察を活かした活動となっていること
 - 季節性を活かした活動となっていること
 - 生き物の生育・成育のプロセスを体験できる活動となっていること
- ねらいと体験がつながっていること
 - 目的に合わせた活動となっていること
 - ねらいを持った遊びとなっていること
- 幼児が興味関心を持てる活動となっていること
 - 紙芝居、絵本などの教材を活用していること
 - 遊びの要素があること（ゲーム性があること）
 - 幼児の興味関心につながっていること
 - 1人ひとりの幼児の興味関心を大切にすること
- 発達段階に合わせていること
 - 年齢に応じた活動となっていること
 - 幼児が自ら感じる、考える、決める、行動するなど発達に必要な活動となっていること
 - 幼小連携を意識した活動となっていること
- 直接体験や多様な感覚（五感）を大切にすること
 - 見る、聞く、嗅ぐ、触れる、味わうなどの多様な感覚を通じた体験となっていること
 - 間接的な体験（画像、映像など）に偏っていないこと
 - 体験や感覚を通して知識を得られる活動となっていること
 - 直接体験を繰り返す活動となっていること
 - 直接体験をたくさん取り入れた活動となっていること
- 感性を大切にすること
 - センス・オブ・ワンダーを育む活動となっていること
 - 1人ひとりの感性を大切にしている活動となっていること
- お互いにわかちあうこと
 - 幼児同士、幼児と大人、大人同士でわかちあう活動となっていること
 - 発見や気づきを多様な表現（言葉、体、絵、歌など）を通してわかちあう活動となっていること
 - お互いに共感し合う活動となっていること
 - お互いの発見や気づきを深める活動となっていること
- 生活につなげること
 - 生活（食、仕事、行事など）につながる活動となっていること
 - 自然と生活のつながりを実感できる活動となっていること
 - 大人の仕事や作業を見学する活動となっていること

- ものを大切にすること
 - 工作などの際に環境に配慮していること
 - 道具や材料を大切に扱う活動となっていること
 - 日常的にものを大切にすることを育むこと
- 地域の特性を活かすこと
 - 地域の自然を活かした活動であること
 - 地域の文化を活かした活動であること
 - 地域の人材を活かした活動であること
 - 地域の施設を活かした活動であること

4. 指導者の心構え

幼児環境教育において指導者の存在や影響が大きいことを理解した上で、下記を心がける。

<チェック項目例>

- 子どもとの関わり方
 - 幼児のまなざし、発言、感情等を大切にすること
 - 幼児の価値観を大切にすること
 - 幼児の主体性を大切にすること
 - 幼児が自由な発想・言動ができる環境を大切にすること
 - 幼児の興味関心を継続・持続させること
 - 大人の自然との関わり方が幼児に影響することを理解すること（言葉、態度など）
- 保護者や協力者との関わり方
 - 保護者に目的や幼児との関わり方を理解してもらうこと
 - 協力者に目的や幼児との関わり方を理解してもらうこと
- 自然との関わり方
 - 指導者自身がたくさん自然体験すること
 - 指導者自身が自然の楽しさや不思議さ、危険などを知ること
- 能力資質
 - 自然や社会に関心を持つこと（生態系や生物多様性、持続可能性など）
 - 未来の社会を意識すること
 - 自分の言葉で説明できるようになること
- 評価
 - 設定したねらいが達成できたか評価すること
 - 指導者だけでなく、保護者や協力者など多様な視点で評価すること
 - 多様な方法（アンケート、観察、発語調査など）で評価すること